

「ふつうの」高校と「ふつうとはちがう」高校

松本隆行

1, 初任校と2校目の比較

	① 青梅総合高校	② 新宿山吹高校
課 程	単位制・総合学科 全日制（定時制もある）	単位制・普通科&情報科 定時制（通信制もある）
授 業	8:30～15:30（45分×7時間授業） 2,3年次に自由選択授業あり	8:40～21:10（50分×12時間授業）のうち 通常4～6時間の授業を受ける 時間割は1年次から自分で作る
行 事	合唱祭、体育祭、文化祭等いろいろ 1年次にフレッシュマンキャンプ、 2年次に修学旅行がある	遠足、修学旅行（隔年）は自由参加 文化祭のみ出席をチェックする行事
校 則	制服あり・身だしなみ等の校則あり	制服なし・校則なし
生 活	朝のSHR、授業、昼食、授業、帰りのSHR、 部活	伝言システムチェック、授業、昼食 or 夕食、 授業、部活
規 模	720名（全日制）	720名（定時制） 普通科1～4部480名 情報科2,4部240名
生 徒	「多摩地区の活発な生徒」が多い傾向 推薦入試は自己プレゼン 1年次産業社会と人間でプレゼン	「都市部のおとなしい生徒」が多い傾向 小・中学校の不登校経験者多い 外国籍、他県出身者もいてさまざま

2, 「ふつう」とはなんだろう

生徒に対して「ふつうこれくらいできるでしょう？」とつい言うてしまうことがあるが、残酷なことを言っている場合があると思うようになった。「ふつうできる」とは、できない生徒もいるがだいたいできる程度を指している。できない生徒は努力不足なのか、それともまったく不可能なのか。

「できる」という言葉の中に、「簡単にできる」から「なんとかできる」まで幅広い「できる」が存在している。「できない」という言葉の中にも、「まったくできない」から「(やればできるようになるが)今はできない」まで幅広い「できない」がある。多様な生徒に対して「ふつうならできる」という言葉掛けをしても、受け取る生徒によってはできないことをやれと言われてに等しいことがある。

集団生活、豊かなコミュニケーション、活発な討議、空気を読む、顔色をうかがうなど、望ましい高校生像は「ふつうできる」ところをスタートラインにして、さらに伸ばすことで到達させたい高みのように思える。それができない生徒は努力不足であり、慣れで乗り越えさせるため、まずやってみることを強く勧める指導がよくあるのではないかな。

乗り越える必要があり、生徒がそれを理解しているならば、乗り越えさせてあげたいと思う。そのためにはベースに安心感が必要なので、安心できる手だて（例えば選択）を用意したいと思う。

以上